

硫黄島での体験

農学研究科 周 虹汝

学籍番号：3412810091

7月14日（土）～15日（日）にわたり、島嶼学概論Ⅰの講義として硫黄島を訪れました。今回の講義を通じて、今まで経験したことのない、人生初めての離島生活を体験しました。離島の素晴らしい魅力と生活の厳し現状を知りました。

フェリーみしま乗船後、船のブリッジを見学させてもらい、これもまた人生の初体験で、すごく感動しました。しかし、こんな立派なフェリーの乗客は少なく、いつも赤字運航で、燃料は経費の8割くらいを占めているという現状を知り、離島交通手段の厳しさを分かりました。島の人たちにとって、鹿児島に結ぶ唯一の交通手段と生活物質を運送する週3回のフェリーみしまの重要性も深く感じていた。

硫黄島に着くまでに竹島に寄り、竹島の海は底が見えるほど綺麗でした。それと比べ、硫黄島の変わった真っ赤な海を見た時にとても印象的でした。私の出身国、台湾にも硫黄島に似ている海がありますが、このような近い距離で見るのは初めてでした。硫黄島に着くと、真夏のような天気でジャンベスクールの人たちが港でパフォーマンスをして、島のお母さんたちも熱情的な踊りをして、みんなの笑顔は素晴らしいでした。

島に着いた後、三島小中学校へ行き、木の下に一人で座って、校長先生に教育方針や教育環境などについて説明していただきました。子供を叱って育てるのではなく、褒めて育ち、挨拶が重要という方針は一番印象に残りました、これは都会でなかなかできないことだと思います。また、子供が硫黄島のことを話せることができ、外に発信する力を持たせるという方針も島ならではの教育だと思います。硫黄島での農業は硫黄岳からの火山ガスの影響を受けていることも教えてもらいました。

次に牧場に行き、畜産農家から経営の厳しさを教えてもらいました。子牛の飼料は鹿児島から輸入すること、特に牛の出荷は大量じゃないため、競売市場じゃなく、契約農家に売ることを聞き、扇風機の設置で牛の飼育環境を改善など経営上の大変さを知りました。

それから平家城展望台、恋人岬公園、坂本温泉に行きました。綺麗な山や海に囲まれ、大自然の素晴らしさを改めて感心しました。島を回る途中、いくつ俊寛の像が建てるのを見て、俊寛堂で俊寛の話を知り、今まで知らない知識をたくさん得ました。

宿泊のジャンベスクールに戻り、先生がスクールの由来を説明して、ジャンベを体験しました。基本の音から長いリズムまで丁寧に教えてもらいました。最初はリズムに乗れず、みんなバラバラで叩いたが、30分後は上手にリズムに乗れて、音楽好きの私は満足感いっぱいでした。すごく楽しかった。

今回運がよくて、島の六月灯を参加させていただきました。これも私にとっての祭り初体験でした。お祭りで、三島小中学校の生徒たちがジャンベを披露した。元気でジャンベを叩きながら歌を歌って、その楽しそうな笑顔と元気のパワーは都会っ子にはないと思います。その後、ジャンベスクールの留学生たちも演出し、港での披露より一層情熱でした。最後に、みんなでジャンベのリズムに乗せて踊りました、その楽しい風景は今でも頭の中に残っています。

次の日、朝早く海岸にある東温泉に向かいました。熱さに苦手の私は足湯を体験し、海は目の前にあり、景色を眺めながら暖かいお湯に入って、最高の経験でした。その後、島の診療所に行って、島の唯一の看護師さんとお話をしました。離島医療の苦労さと抱えている問題を聞きました。三島村に市内から医師が3ヶ月ごとに派遣されるので、島の人たちは同じ保険料を払ってるのに、本島の人たちと同じレベルの診療を受けない現状や、緊急搬送の時ドクターヘリと自衛隊のヘリ両方とも飛べない場合もあるということを知り、先進国の日本国の国内にもこんな大きい医療格差があることで驚きました。

帰りのフェリーの出港のときにもジャンベスクールの留学生たちが見送りに来てくれました、前日と変わらない熱情的なパフォーマンスでもう一度感動しました。1泊の体験で、島のことをたくさん学んだが、短かったと感じます。これからは硫黄島の素晴らしさを友達に教えて、連れて行きたいと思います。

最後に、今回の講義でお世話になった方々、本当にありがとうございました。とても楽しい、有意義な二日間を過ごしました。今後機会があったら、もう一度硫黄島に行きたいと思います。